

灘光洋子教授主要業績一覧

List of Major Works by NADAMITSU Yoko

●著書

2007年3月 『改定新版：多文化社会と異文化コミュニケーション』（池田理知子・今井千景・吉武正樹・エリック・M.クレマー・山田美智子・岩隈美穂・伊佐雅子・丸山真純と共著；伊佐雅子・監修）。（担当章：pp.31-49）三修社。

●主な学術論文（定期刊行物および単行本の一部）

- 1979年9月 「二つの英訳“Botchan”にみられる相違と諸問題」『広島女学院大学英文学会会報』第23号, pp.97-108.
- 1990年1月 Issues in communication between Japanese and North Americans when aided by an interpreter. 『広島女学院大学英文学会会報』第34号, pp.129-148.
- 1992年5月 Self-monitoring in Japan and the United States. (co-authored with W. B. Gudykunst, G. Gao, T. Nishida, and J. Sakai). In S. Iwawaki, Y. Kashima, and K. Leung (Eds.), *Innovations in cross-cultural psychology: Selected papers from the tenth international conference of the International Association for Cross-Cultural Psychology* (pp.185-198). Swets & Zeitlinger.
- 1996年5月 Similar or different: A cross-cultural communication study of the group consciousness of Chinese and Japanese. Ph.D. dissertation (University of Oklahoma). An Arbor, MI: University Microfilms International.
- 1997年5月 The turn-taking mechanism of interpreter-aided conversation: A search for translation-onset places. (co-authored with S. Paulk). 『ヒューマン・コミュニケーション研究』第25号, pp.97-131.
- 1999年3月 Chinese in Japan: Encounter with a different group consciousness. (co-authored with L. Chen and G. Friedrich). 『異文化コミュニケーション研究』第11号, p.53-84.
- 2000年8月 Similar or different?: The Chinese experience of Japanese culture. (co-authored with L. Chen and G. Friedrich). In M. J. Collier (Ed.), *Constituting cultural difference through discourse* (pp. 158-188). SAGE Publications.
- 2001年3月 「法廷通訳人が直面する問題点：文化的差異をどう捉えるか」『異文化コミュニケーション研究』第13号, pp.59-82.

- 2001年11月 Argumentativeness and traditional values: A cross-cultural comparison of Japanese, Hong Kong Chinese and Mainland Chinese. (co-authored with L.Chen and B.L.Kaman). *Human Communication*, 4(1), pp.57-70.
- 2002年3月 「医者のコミュニケーション能力に関する一考察：模擬患者を使ったトレーニング事例をもとに」『城西国際大学紀要 人文学部』第10巻, 第2号, pp.61-79.
- 2003年3月 East meets East: How Chinese perceive and interpret Japanese communicative behaviors. 『日本コミュニケーション研究者会議Proceedings』第13号, pp.1-41.
- 2004年6月 「医者のパッドニューステリング・ストラテジーについての一考察：模擬患者演習の事例をもとに」『スピーチ・コミュニケーション教育』第17号, pp.51-70.
- 2006年3月 「社会構築主義が異文化コミュニケーション研究に与える影響についての一考察：方法論を中心として」『成蹊英語英文学研究』第10号, pp.133-147.
- 2007年3月 「阿蘭陀通詞の歴史的貢献とマージナル性について：異文化コミュニケーションの仲介人としての位置付けを中心として」『ヒューマン・コミュニケーション研究』第35号, pp.77-91.
- 2008年12月 「医療通訳者の立場、役割、動機について：インタビュー調査をもとに」『通訳翻訳研究』第8号, pp.73-95.
- 2009年6月 「〈鍵概念〉医療通訳」『日本保健医療行動科学学会年報』第24巻, pp.161-168.
- 2009年12月 「異文化分析から見た医療コミュニケーション」(吉田登志子・松村真司と共著)医療コミュニケーション研究会(編)『医療コミュニケーション：実証研究への多面的アプローチ』(pp.115-130). 篠原出版新社.
- 2011年3月 「医療通訳者のアンビバレントな立ち位置について：インタビューをもとに」成蹊大学文学部学会(編)『異言語と出会う、異文化と出会う』(pp.1-44). 風間書房.
- 2011年4月 「コミュニケーション学におけるコミュニケーション能力の捉え方」日本コミュニケーション学会(編)『現代日本のコミュニケーション研究：日本コミュニケーション学の足跡と展望』(pp.120-129). 三修社.
- 2011年12月 Communication barriers in interpreter-aided medical care for foreign patients in Japan. 『多文化関係学』第8巻, pp.65-83.
- 2014年3月 「質的研究方法について考える：グラウンデッド・セオリー・アプローチ、ナラティブ分析、アクションリサーチを中心として」(浅井亜紀子・小柳志津と共著)『異文化コミュニケーション論集』第12号, pp.67-84.
- 2017年3月 「フレーム」 「コミュニケーション・アコモデーション理論」吉田登志子(研究代表者)『基礎理論と臨床をつなぐ歯科医療コミュニケーションガイドの開発』(pp.37-38, pp.41-42). 平成26年度～平成28年度 科学研究費補助金 基盤研究C 研究成果報告書(課題番号 26463183).
- 2017年12月 「『繋ぐ』実践について考える：NPOにおける医療通訳コーディネーターへのインタビューから」『多文化関係学』第14巻, pp.79-97.
- 2018年3月 「立教大学におけるコミュニケーション教育の現状と展望：異文化コミュニケ

ーション学部の取り組み」『日本コミュニケーション研究者会議 Proceedings』第27号, pp.67-76.

●訳書

- 2004年11月 「女が医者になるとき：医者と患者に見られる権力・地位・ジェンダーの構図」キャンディス・ウエスト（著）『ジェンダーの言語学』（かつえ秋葉れいのるず・永原浩行・訳編）（pp.49-81）. 明石書店. [原著：West, C. (1984). “When the doctor is a ‘lady’: Power, status and gender in physician-patient encounters.” *Symbolic Interaction*, 7(1), pp.87-106].
- 2018年1月 「批判理論：ヘゲモニー，知の生産，コミュニケーション行為」プシュカラ・プラサド（著）『質的研究のための理論入門：ポスト実証主義の諸系譜』（箕浦康子・監訳）（pp.149-174）. ナカニシヤ書店. [原著：Prasad, P. (2005). *Crafting qualitative research: Working in the postpositivist traditions*. Armonk: ME Sharpe].

●書評・総評

- 2005年5月 「書評：外国語コミュニケーションの情意と動機（八島智子・著）」『異文化コミュニケーション』第8号, pp.254-256. 関西学院大学出版部.
- 2010年12月 「巻頭言：特集 文化と媒介性を考える」（田崎勝也・ギブソン松井佳子・手塚千鶴子と共著）『多文化関係学』第7巻, pp.A1-A4.

●事典項目執筆

- 2013年1月 『異文化コミュニケーション事典』（3項目担当）春風社.
- 2018年11月 『質的心理学辞典』（2項目担当）新曜社.
- 2021年6月刊行予定 『異文化間教育学会事典』（1項目担当）明石書店.

●学会・学術会議等での研究発表

- 1990年7月 Self-monitoring in Japan and the United States. (co-presented with W.B. Gudykunst, G.Gao, T.Nishida, and J.Sakai.) The 10th International Association for Cross-Cultural Psychology Congress (奈良).
- 1991年2月 Face and culture: Toward the development of facework taxonomy. (co-presented with S.Ting-Toomey, P.Trubisky, J.Bruschke, J.Sakai, T.Nishida, and J.Baker). The 62nd Annual Convention of Western States Communication Association (米国・アリゾナ).
- 1991年3月 Interpreter’s role in communication between Japanese and North Americans. The Intercultural and International Communication Conference: Communication in Japan & USA (米国・カリフォルニア).
- 1992年10月 Using simulations to develop sensitivity toward cultural diversity. (co-presented with D.Kinney.) The Communication and Cultural Diversity in American Institutions: An Intercultural Conference for Academics and Practitioners (米国・カリフォルニア).

- 1994年11月 A cross-cultural analysis of media reports on the Japanese emperor's statement in China visit. (co-presented with L.Chen.) The 80th Annual Convention of Speech Communication Association: International and Intercultural Communication Division (米国・ルイジアナ).
- 1994年11月 The turn-taking mechanism of interpreter-aided conversation: A search for translation-onset places. (co-presented with S.Paulk.) The 80th Annual Convention of Speech Communication Association: Language and Social Interaction Division (米国・ルイジアナ).
- 1995年8月 Exploration of cross-cultural study on two East Asian cultures: Japan and China. The 5th International Conference on Cross-Cultural Communication (中国・ハルビン).
- 1995年11月 Translation and hermeneutics. The 14th Annual Gesber Conference (米国・イリノイ).
- 1997年5月 Similar or different?: A cross-cultural communication study of some aspects of Chinese and Japanese. (co-presented with L.Chen and G.Friedrich.) The 47th Annual Conference of International Communication Association: Intercultural and Development Communication Division (カナダ・モントリオール).
- 1997年6月 Issues of translation: A case study of Japanese emperor's statement made in China. (co-presented with A.Kriman.) 第27回日本コミュニケーション学会年次大会(長崎).
- 1999年5月 「中国人が語る日本人と中国人の相違点：集団意識と対人関係において」第20回異文化間教育学会年次大会(鳴門).
- 2000年5月 Argumentativeness and traditional values: A cross-cultural comparison of Japanese, Hong Kong Chinese, and Mainland Chinese. (co-presented with L.Chen and B.L.Kaman.) The 50th Annual Conference of International Communication Association: Intercultural and Development Communication Division (メキシコ・アカプルコ).
- 2000年6月 「法廷通訳人が直面する問題点：文化的差異と通訳の正確性の立場から」第30回日本コミュニケーション学会年次大会(東京).
- 2001年6月 「医療におけるコミュニケーションの一考察：模擬患者を使ったトレーニングをもとに」第31回日本コミュニケーション学会年次大会(東京).
- 2001年7月 Should the court interpreter be a translation machine? The 8th International Conference on Cross-Cultural Communication (中国・香港).
- 2002年5月 East meets East: How Chinese perceive and interpret Japanese communicative behaviors. 日本コミュニケーション研究会議(名古屋).
- 2002年12月 「日中異文化コミュニケーションの現状と課題」異文化コミュニケーション学会主催プログラムシンポジウム(東京・国際文化会館).
- 2003年6月 「医者のパッドニューステリング・ストラテジーについての一考察：模擬患者演習の事例をもとに」第33回日本コミュニケーション学会年次大会(札幌).
- 2004年6月 「日本のイメージ、中国のイメージ：異文化教育の必要性」第34回日本コミュ

- ニケーション学会年次大会シンポジウム (八王子).
- 2005 年 2 月 「江戸時代における通訳者のあり方：阿蘭陀通詞を中心として」第 15 回日本通訳学会例会 (東京).
- 2005 年 10 月 「異文化コミュニケーション研究と社会構築主義」第 2 回国際行動学会年次大会 (静岡).
- 2006 年 6 月 「長崎通詞の在り方から考える通訳者のマージナル性について：阿蘭陀通詞の歴史的貢献を中心として」第 36 回日本コミュニケーション学会年次大会 (東京).
- 2007 年 10 月 「医療の場における通訳者の役割について」第 6 回多文化関係学会年次大会 (兵庫).
- 2008 年 6 月 「外国人医療における通訳者の役割について：医療通訳者へのインタビュー調査から」第 23 回日本保健医療行動科学学会学術大会 (山梨).
- 2008 年 10 月 「医療通訳の現状と課題：コミュニケーションの問題を中心として」第 7 回多文化関係学会年次大会 (東京).
- 2009 年 1 月 「医療通訳スタッフ聞き取り調査報告 医療通訳の現状：立場、役割、動機を中心として」かながわ医療通訳セミナー2009 (神奈川).
- 2010 年 6 月 Communication barriers in medical care for non-Japanese patients: Through the eyes of medical interpreters. The 60th Annual Conference of International Communication Association: International Communication Division (シンガポール).
- 2010 年 10 月 「異文化コミュニケーション能力について考える」(セッション・テーマ：コミュニケーション学における異文化コミュニケーション能力の捉え方) 第 25 回異文化コミュニケーション学会年次大会シンポジウム (東京).
- 2011 年 10 月 「ナラティブ分析」(セッション・テーマ：質的研究法について考える) 第 26 回異文化コミュニケーション学会年次大会シンポジウム (兵庫).
- 2012 年 12 月 「医療通訳者のジレンマ：インタビュー調査から」医療コミュニケーション研究会第 23 回例会 (名古屋).
- 2016 年 3 月 「第 2 回医療コミュニケーションガイド作成に関する会議」にて関連理論・概念を発表 (平成 26 年度～平成 28 年度 科学研究費補助金 基盤研究 C「基礎理論と臨床をつなぐ歯科医療コミュニケーションガイドの開発」研究代表者：吉田登志子) (岡山).
- 2016 年 5 月 「医療通訳者が直面する困難：役割と動機についての語りから」(セッション・テーマ：在住外国人の医療政策の構築に向けて～医療通訳システムの課題と展望) 移民政策学会 2016 年度年次大会シンポジウム (東京).
- 2016 年 10 月 「『繋ぐ』という行為について考える：医療通訳派遣コーディネーターへのインタビューから」第 15 回多文化関係学会年次大会 (佐賀).
- 2017 年 5 月 「立教大学におけるコミュニケーション教育の現状と展望：異文化コミュニケーション学部の取り組み」日本コミュニケーション研究者会議 (名古屋).
- 2018 年 7 月 「医療系学生のためのコミュニケーション授業の一例：異文化コミュニケーションの視点から」第 37 回日本歯科医学教育学会 医療コミュニケーション・ファシリテーター養成セミナー 第 9 回フォローアップ・セッション特別講演(福島).

ICR

- 2018年8月 「批判理論の視座から質的研究を考える」(セッション・テーマ:「技」としての質的研究:複雑化する社会を読み解く鍵を求めて)第33回異文化コミュニケーション学会国際大会特別企画シンポジウム(東京).
- 2018年9月 「医者と患者の異文化コミュニケーション」(セッション・テーマ:医療の国際化に関する諸問題の異文化コミュニケーションの視点からの分析)第10回ヘルス・コミュニケーション学会学術集会シンポジウム(福岡).

(李重 編)